

水イボとプール

皮膚科

毎

年プールの時期が近づくと「水イボを取ってくるように言われた」と受診する患者様が増えます。平成11年4月学校保健法施行規則一部改正で、水イボは出席停止やプール禁止が原則として必要ないと認められていますが、いまだにプールの現場では「水イボに対する誤解」があるようです。そこで今日は、保護者の方々だけでなくプール関係者の方々にも読んでいただきたいお話です。

水イボとは、皮膚にウイルスが感染し生じるイボの一種です。水イボを排除しようとする皮膚の反応により、痒みが生じます。ひっかいて水イボがつぶれる状態を放置すると、全身に水イボが広がることもあります。子供に多い病気で肌と肌が直接触れたりタオルやビート板などの物を介して、水イボの内容物が肌に接触することで感染します。確かにプールは感染の場となりますが、子供たちが半袖半ズボンで仲良く遊んでいれば肌が触れ合うので、プールだけを禁止しても感染は防げません。

病院で行っている実際の治療方法ですが、専用のピンセットで水イボを1個ずつ摘み取ります。表面麻酔テープを使用しますが、全く痛みがないわけではありません。目で確認できる水イボを摘み取っても100%取れるわけではないので、再発することがほとんどです。

水イボは治療しなくても9割程は1-2年で自然に治るので、私は取る必要はないと考えています。ただし、どんどん広がり痒みが強い時は、皮膚科に受診してください。相談しながら状況に応じた治療をしていきます。

水イボの感染力は弱く、健康な人の健康な皮膚にウイルスが付着しても感染しません。アトピー性皮膚炎などの皮膚のバリア機能が低下している人に高率に感染します。子供の肌は健康そうに見えても、乾燥肌や掻き壊しによる微細な傷や湿疹があり水イボが感染しやすいのです。プールの後は水道水でしっかり洗い流し、保湿剤を塗ってから肌触りのよい下着や衣服を着ましょう。乾燥肌や湿疹を防ぐことで、感染や拡大を予防しましょう。治療よりも予防が大切です。

当クリニック小児科では、スキンケアの指導も含め水いぼへの対応が可能です。
気になる方は医師にご相談下さい。

自由が丘メディカルプラザ 小児科
03-5731-3565

記事 記載医師のご紹介

2010.6

医療法人社団めぐみ会

多摩ガーデンクリニック

東京都多摩市落合1-35 ライオンズ多摩センター3F

むとう みか

● 武藤 美香

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医